

インターネットでの 新たな基盤情報の提供

—総合的職業情報データベースの開発—

労働政策研究・研修機構

手軽に使えて森羅万象

労働政策研究・研修機構では現在、インターネットによる新しい

職務情報・職業情報の提供システムを開発しています。インターネットを通じて、若年から中高年までの人々が、自分の特性に合った仕事を探したり、今までのキャリアを生かせる仕事を見つれたりといった意思決定を支援するものです。完成後は、職業や職務に関する詳細な情報や、各種の基準となる数値、関連する情報、等々多彩な情報がデータベースとして提供できることになっており、また、このデータベースをコアとして、就職、転職に関する総合的な情報

を、インターネットを通じて提供しようとするものです。この種のデータベースとしては、米労働省が開発している有名なONNETがあります。

米労働省のサイトで最もアクセスが多いトップ3は、①具体的な求人・求職情報の提供（AJBとよばれ、日本のハローワークインターネットサービスに相当）と②就職・転職に関する総合案内サイト（CareerInfoNet）と③職業情報です。この②と③の部分を、日本として開発しているプロジェクトといえます。

開発中のメニュー

システムの基盤となるのは、職

業や職務の定義や解説、就職経路、各種統計情報、各職業や各職務に対応した興味、スキル、知識、バックグラウンド等の基準となる数値からなるデータベースです。このデータベースを利用するための入り口として、以下のシステムの開発が進んでいます。

○学生・若年向けシステム

主に学生や若年向けで、簡単な職業興味検査、職業の選択で重視する点、スキル等からそれに合った職業や職務を探索することができます。

○社会人向けシステム

就業経験のある人向けのシステムで、これまでに就いた職業や職務を入力すると、「そのような職業や職務をしてきた人であれば、

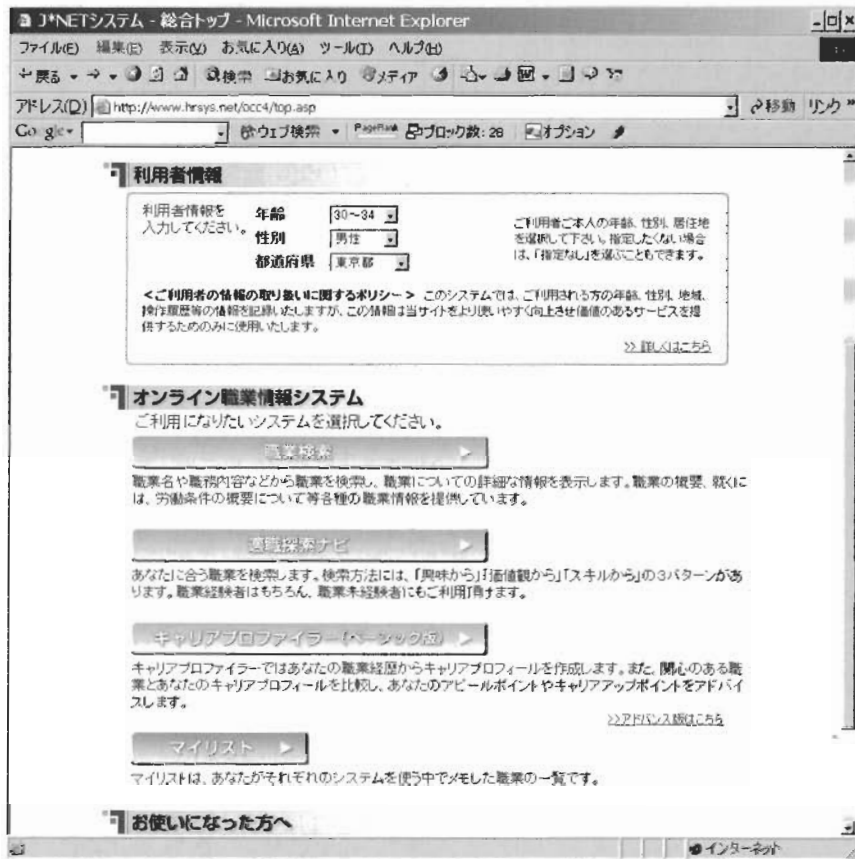
このような強みがあるはずです（アピールポイント）、そしてそのアピールポイントから、このような職業や職務が向いています」という結果が得られるものです。

○多面的な職業探索システム

数多くの中から特定の職業を探し出すのはけっこう難しいものです。このシステムではフリーワードによる検索や各種分類、五十音順等から職業や職務を的確に探し出すことができます。

共通言語整備

システム開発と平行して行われているのが、求人求職における「共通言語」の整備です。現在はこのようなものがないために、求



1 システムの入り口



2 職業の検索

5 職業安定広報 2004.5.21

職側の経歴や、スキル、興味等の要件と、求人側が求める要件を結ぶ共通の言語や基準がなく、食い違いが随所に生じ、ミスマッチや就職プロセスでの様々な問題が生じています。

利用方法、今後のスケジュール

現在、システムの開発が進んでいます。専門家による検証や第一線での実験的運用、試行と平行し

て、システムの改善、内容充実を行い、その後、段階的に公開していく予定です。ハローワーク職員の方々のご協力を期待しております。完成するとインターネットを通じて公開しますので、通常のパーソナルコンピュータから利用す

ることができそうです。現在開発中のシステムは一般向けのものですが、職員やカウンセラー等、専門家向けのシステムも開発する予定です。

(労働政策研究・研修機構 主任研究員 松本真作)